

氏名	那 須 良 次
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	博 甲 第 704 号
学 位 授 与 の 日 付	昭 和 63 年 3 月 31 日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科外科系泌尿器科学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学 位 論 文 題 目	尿路性器感染症における <i>E. coli</i> の病原性因子について その 1 急性単純性膀胱炎由来株の性状 その 2 P 線毛の検出と病態との関連性 その 3 病原性因子としての線毛の尿路臓器特異性
論 文 審 査 委 員	教授 金政泰弘 教授 新居志郎 教授 関場 香

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

急性単純性膀胱炎由来の *E. coli* は type 1 線毛保有株が多数を占め、血尿を認めた症例、化学療法施行後も菌が存続した症例からの分離菌は全て type 1 線毛を有しており、type 1 線毛は下部尿路感染症における病原性因子のひとつと考えられた（その 1）。急性単純性腎盂腎炎、急性単純性前立腺炎由来の *E. coli* は P 線毛を含む MR 線毛と type 1 線毛をともに有する株が多数を占めており、2 種類の線毛をともに有することが病原性因子として重要と考えられた（その 2）。In vitro 付着実験で、type 1 線毛を介する尿路移行上皮への付着、P 線毛を介する腎尿細管上皮への付着、P 線毛以外の MR 線毛を介する前立腺上皮への付着が観察され、各線毛が定着因子として尿路臓器特異性を有する可能性が示された（その 3）。

以上の検討から、尿路性器感染症における病原性因子としては type 1 線毛と MR 線毛（P 線毛を含む）の連関が重要であり、感染成立の第一段階として type 1 線毛を介する尿路移行上皮への付着が、更に、腎盂腎炎、前立腺炎に進展する場合、腎では P 線毛が、前立腺では P 線毛以外の MR 線毛が第二段階の標的臓器への定着因子として重要な役割を演じている可能性が示唆された。

論文審査の結果の要旨

本研究は、尿路性器感染症における *E. coli* の病原性因子についての解析を行ったものである。病原性因子としては、尿路移行上皮への付着には type 1 線毛、腎では P 線毛、前立腺では P 線毛以外の MR 線毛が定着因子として重要であるという重要な知見を得た。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。